
真龍小学校がめざす教育

1 学校の教育目標

心と体をきたえる子
美しい心をもつ子
考えて行動する子
生き生きと学ぶ子

2 学校の教育目標の解説

現在、変化の激しい社会にあって、知識を獲得することにとどまることなく、自らよりよく問題を解決する能力や資質、豊かな人間性や社会性、たくましく生きるための健康や体力をバランスよくはぐくんでいくことが求められている。

こうしたことから、学校の教育目標が求める資質や能力等を明らかにする。

(1) 心と体をきたえる子

変化する社会においてたくましく生きていく自律的な精神は、正義を愛し勇気をもって行動するとともに、より高い目標に向かって困難に耐えて最後までやり通し、常に明るく誠実に行動する強じんな意志力が根底にある。体の発育段階に応じた健康安全に必要な生活行動、よい生活環境をつくり出す基本的態度、及び適切な運動に親しませることなどを通して、自ら健康でたくましい身体に鍛え、生命尊重・健康安全の基本を育成する。

(2) 美しい心をもつ子

相手に対する優しい心や生命尊重の精神は、相互に人間を信じあう人間愛に支えられるものであり、その基本は思いやりの心である。教師と子ども、子ども相互が思いやりの心で、望ましい人間関係を深め、助け合い、支え合いながら生きていることに感謝し、共によりよく生きようとする心をはぐくんでいく。さらに、自然を愛し親しみ、美しいものや崇高なものを畏敬し清らかな心を育成する。

(3) 考えて行動する子

人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利を保障する社会において、人間の尊厳は基盤となるものである。人間の尊厳とは、自己だけでなく、他人の人格も尊重することであり、権利の主張を認め、あわせて義務を果たすことを求めるものである。教育活動の全体を通して、自らの意識で目標を定め、自らの責任で選択し行動する実践力を育てる。さらに、集団における役割の自覚を深め、子どもの規範意識を育てる。

(4) 生き生きと学ぶ子

基礎的・基本的な学力を身につけ、それを土台に自主的・創造的に人間として学びながら成長していく基盤をつくるのが、学校のもつ使命の根幹である。一人一人のもっている身体的・知的・情緒的・性格的な発達の特色を把握し、学習負担の適正化・適時性を考慮し、言語環境を整え、かつ有効で不可欠なコンピュータや情報通信ネットワークなどの教材・教具や学校図書館を計画的・継続的に活用し、一人一人の子どもが自分の能力を最大限に伸ばし、自ら学ぶ意欲と喜びの基礎を育成する。